

【第5次津島市総合計画】施策評価シート(2024年度)

施策コード	25
-------	----

まちづくりの方針	2 教育・文化・人権
施策	5 多文化共生・国際交流
施策のめざす姿	日本人市民と外国籍市民が地域を含めた交流を通じて理解しあい、同じ生活者・地域住民として支えあつて暮らしています。

まちづくり指標	現状値 (2019年度)	実績値					目標値	
		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2025年度	2030年度
国際交流事業などへの年間参加者数(人)【シティプロモーション課】	637	259	1046	842			700	800
多文化共生の推進を重要だと考える市民の割合(%)【シティプロモーション課】	18.4	—	—	—			27.6	36.8

施策の方針	担当課	実績・成果
		今後の方向
1 外国籍の人が暮らしやすい環境の整備	シティプロモーション課	津島市国際交流協会と連携し、外国籍の小中学校生が、日本で教育を受けていく中で不便とならないように、日本語教室を開催した。 引き続き、市内の外国籍の方々が学校等で不便とならないよう、日本語教室を実施する。
2 国際交流を支える人材の育成	シティプロモーション課	津島市国際交流協会と連携し、国際活動経験のある講師を招き、市内中学校を対象に出前授業を実施した。 引き続き、出前授業を実施することで、将来的に国際交流を支える人材の育成を図る取組について、関係団体と検討する。
3 市民の国際化の推進	シティプロモーション課	津島市国際交流協会と連携し、国際活動経験のある講師を招き、市民を対象に国際交流講演会を実施した。 引き続き、国際交流講演会を実施することで、市民の国際化の推進を図る取組について、関係団体と検討する。

総括評価	施策のめざす姿の達成状況	姉妹都市交流は、今後の交流方針や、新型コロナウイルス感染症が発生する前に実施していた両市の学生派遣受入事業の代替事業について、ハーキュリーズ姉妹都市協会とオンラインを使って協議を行った。市民や中学生の国際理解を深める取組として「国際理解教育出前授業」や「国際交流講演会」を実施できたことで、世界の現状等について学ぶとともにグローバルな感覚を養うことができた。また、外国籍の小中学生や大人向けの日本語教室とともに、年間を通じて多くの参加があったことから、津島市の多文化共生の実現に寄与できたと考える。	評価 B
	施策のめざす姿の達成に向けて今後必要なこと	現在、市内に限らず、外国籍の学生や社会人が国内に多く暮らしている状況の中で、多様な文化の理解の深化や国際意識を醸成させる本事業の意味合いは大きいと考える。引き続き、津島市国際交流協会や日本語教室関係者等と連携し、より多くの市民が多文化・国際交流について意識する機会を増やせる取組を進めていく。	方針 継続